

丹波市人権・同和教育協議会

人権ネットワーク たんば

第50号

発行 丹波市人権・同和教育協議会
 事務局 〒669-3309
 丹波市柏原町柏原443
 TEL・FAX 0795-72-2770
 e-mail jinken@tambashi-doukyou.jp

人権教育研修会 (社会教育分野 合同部会A)

7月15日(木)

演題/「幸せな人生を歩むために」

講師/福知山市観音寺(丹波あじさい寺)住職 小藪実英さん

〇コロナ禍を生きる

美しい花をみたり、法話を聞いたり、お寺参りをしたりなど「心のゆとり」がコロナ禍を生きるための「心の栄養剤」になるのではないのでしょうか。

「本心は主、妄念は客なり」という言葉があります。「主」は第一の感情、「客」は第二の感情と言われています。たとえば、美しい花を見て心が和むのは第一の感情です。しかし、人間には、その花を自分のものにしたい、切って持って帰りたいという第二の感情が生まれます。この第二の感情は「欲望」という言葉で表すことができます。人間の欲望には限りがありません。欲望を追い求める生き方の向こうに幸せはありません。

〇幸せな人生を歩むには

元京都大学総長 平澤 興さんは「人の一生は心の成長のためにある」と言われました。心が成長すると「人は苦しんだだけ強くなる 人は悲しんだだけ優しくなる 人は悩んだだけ深くなる 人は苦労しただけ成長する」というふうにとらえられるようになります。これが幸せを感じる生き方です。

また、おいしい食事をした時に幸せを感じる人は多いと思います。豪華で高価な食事もおいしいと思いますが、腹ペコの時に食べたおにぎりのおいしさに勝るものはないように思います。

物まねタレントのコロケ(本名:滝川広志)の母は「広志、私はお風呂に入って、ご飯を食べて、寝られたら、それで幸せたい」と言っています。「風呂に入れる・ご飯を食べられ

る・寝られる」当たり前生活を当たり前におくれることに幸せを感じられる人は意外に少ないのではないのでしょうか。本当は幸せなのに、文句ばかりを言っていますね。

〇何のために生まれてきたのか

「濟世利人(さいせいりにん)」という言葉があります。人や社会のために生きる、自分のためだけでなく、人や社会の役に立つということです。

マザーテレサは「この世の最大の不幸は、貧しさや病ではありません。誰からも自分は必要とされていないと感ずることです」と言っています。家族や友人、地域の方からいろいろなことを頼まれることも、自分が必要とされているのです。幸せなことです。

〇アメリカ大リーグで活躍する大谷翔平選手に学ぶ

エンゼルスの大谷翔平選手がオールスター戦で史上初の二刀流(ピッチャーとバッター)で出場し初勝利を飾りました。それだけではありません。試合以外でも見せ場を作ったのです。大谷選手はブルペンでの投球練習を終えてベンチに向かう際、グラブを外してかがむシーンがありました。グラウンドにゴミが落ちていたようで、自然な動作でそれを拾うと、尻ポケットに「回収」したのです。このシーンが報道されると、SNSでは「全ての野球人へのお手本」「すごい人間力」と称える書き込みが相次ぎました。

大谷選手は高校の時、目標達成シート(マンダラチャート)に「ゴミ拾い」を掲げていました。この目標達成シートは81マスからなり、夢である「ドラフト1位 8球団」を叶える

ため、「体づくり」「コントロール」「メンタル」など8つの必要項目を挙げていますが、その一つの「運」を味方にするため「あいさつ」「応援される人になる」などと意識すべき点として「ゴミ拾い」を挙げていました。まだまだ、日本人に対する偏見や差別が根強く残るアメリカで多くの人から愛される大谷選手、日本人の一人として大変うれしく思います。

〇どんな心をつくるのか

つくりたい心を3つ挙げたいと思います。一つ目は「さわやかな心」です。ものに執着しない、こだわりのない心です。二つ目は「やさしい心」です。人を思いやる、人の痛みのわかる心です。そして三つ目は「強い心」です。苦難に負けない、正しい判断のできる心です。



人権教育研修会 (学校教育分野)

8月4日(水)

演題/「学び続けて 新たに気づく～人権問題の重要な柱～」

講師/元丹波篠山市立小学校 校長 塚本一男さん

部落差別は解消されないまま、ネット社会の進展により新たな差別がうまれています。学生時代新聞配達のアパートをしていた私は、「あそこは怖いぞ」と先輩に言われて「部落差別ってこんなふうに残っているのか!」と痛感したことを覚えています。同和对策審議会答申で「部落差別の解決は国の責務であり国民的課題である」と示されたこの問題が、半世紀をこえてなお解決されず、新たな法の成立にいたりしました。

2016年12月、部落差別解消推進法が成立しました。2002年に地対財特法(時限立法)が終了し、それから14年の年月をへて部落差別という用語を使用した法律ができました。国民的課題だと言われながら解決できないままの50有余年。解決できなかった国民の一人として、その責任の重さをかみしめたいと思います。

「人権教育とは?」「同和教育とは?」「道徳教育とは?」と尋ねられた時、私たちはどれだけ明確に答えられるでしょう。「人権教育及び人権啓発の推進に関する法律」や「人権教育の指導方法等の在り方について(第三次とりまとめ)」の中で人権教育について詳しく説明されていますが、私はわかりやすく「自分も人も大切にできるようにするための教育」ととらえています。



「人権教育のための国連10年」の中で、人権教育には4つの柱があることを学びました。「人権としての教育」「人権についての教育」「人権のための教育」「人権を通しての教育」の4つです。授業の中では、人権教育のどの柱を実践しているのか、意識しておくことが大切だと思っています。

法務省人権擁護局が発行している冊子「令和3年度版 人権の擁護」には主な人権課題として女性・子ども・高齢者・障害のある人・部落問題など17項目に分けて提示されています。

本日の研修会テーマの副題を「人権問題の重要な柱」としていますが、1998年に兵庫県教育委員会は「人権教育基本方針」の中で「同和教育が人権問題の重要な柱」と位置づけています。私たちは同和教育を人権問題の重要な柱として人権教育の中に位置づけて取り組んできたのでしょうか。人権教育の名のもとに同和教育を薄めてきてはいないのでしょうか。教育に携わる者として今までをふりかえり、これから自分にできることは何かを問い続けたいと思います。

「差別の現実、人権侵害の現実に深く学ぶ」という視点で、部落差別に苦しむ人を具体例を挙げて考えてみたいと思います。一つ目は当事者の声です。

・「私は解放学級に通い、自分のむらを誇りに思ってきました。でも、大学生の時、部落差別を目の当たりにし怖くて手が震えました。それはおかしいと声をあげてくれる人がいたらどんなに救われたか、と思います」
次に二つ目です。

・「お母さんに『部落の人と結婚したいと思ったらどうする』と聞いたことがあります。そうしたら、『うーん』と困った顔をしました。私は悲しくなり、腹が立ちました」

これはある中学校で部落差別について話をした時にいただいた感想の一部です。家族から間違ったことを言われてすごく傷ついた人がいます。それは、被差別の体験ではありませんが、信頼する身近な人のことばであるからこそ、よりよく生きようとする善良な心が傷つく。傷ついた人もまた人権が侵害された被害者だと思ふのです。部落差別は、すべての人々の人権を侵します。

最後に三つ目です。長い間、子どものころの痛みを抱えて生きてきた40代の人のことばです。

・「小学1年生の時『道を越えた所の子と遊んだらあかん』と家族に言われ、その言葉をそのまま友達に言ってしまいました。その友達は涙を流しながら『なんで私と遊べへん?』と訴えました。6年生になり部落問題を学習し『なんてひどいことをわたしは言ってしまったのか』と、今でも心を痛めています。今日お話しできて少し救われた、許された気がします」

長い間、加害の痛みを心に残し解放されないまま生きてきた人のことばです。つい数年前の出会いです。部落差別をなくすことは、すべての人にとって重要なことだと改めて痛感します。

差別を許さない生き方のために私たちは何ができるのでしょうか。教育現場は、悩みも多い事でしょう。悩むことは学ぶことだと思います。ただ、一人で悩まないでほしいです。悩みを共有し学び合える仲間をどうつくっていくか、が大切なのです。

「学び続けて 新たに気づく 自分の中の差別心」
これは、2019年丹波篠山市が取り組んだ人権啓発標語の募集に応募した私の作品です。学びを続け自分の差別心に気づかされた時「人間って、そんなもの」、自らの弱さを自覚し、心をコントロールすることができるようになるため、これからも仲間とともに悩み、学び続けたいと思います。

あなたとまちとフェイス to フェイス
中兵庫信用金庫
 NAKASHIN
 理事長 足立 厚郎
 本店・丹波本部 丹波市氷上町成松226-1
 Tel.(0795)82-8850(代)
 三田本部 三田市けやき台1-4-3
 Tel.(079)569-7150(代)
 ホームページ http://www.nakashin.co.jp

JA丹波ひかみは
 地産地消に取り組み
 地域の「食」と「農」を応援します!
 とれたて野菜直売所
 ※場所: JA丹波ひかみ本店敷地内
 一希望とらうおのいあるまちづくりー
JA丹波ひかみ
 〒669-3461 丹波市氷上町市辺440 TEL.(0795)82-0170 FAX.(0795)82-3658
 https://ja-tanbahikami.or.jp/

真実一線 株式会社 吉住工務店
 代表取締役社長 吉住 正基
 本社: 丹波市春日町野村2465
 TEL: 0795-74-0712
 こだま館/丹波展示場
 西宮営業所/西宮展示場
 三田展示場

丹波新聞は下記の店舗で
 最新号を販売しております。
 丹波市
 ●ファミリーマート柏原下小倉店
 ●氷上パーキングエリア
 ●ひかみ四季菜館(大岡)
 ●丹波医療センター内 売店
 ●セブンイレブン丹波市辺南店
 丹波篠山市
 ●ファミリーマート篠山丹南店
 ●岡本病院内 売店
 ●セブンイレブン篠山黒岡店
丹波新聞 TEL.0795-72-0530 FAX.0795-72-1956
 丹波新聞 検索